

教科イチ押し見学会 2025 森美術館



美大在学中の卒業生が、大学の同級生と一緒に今年の教科イチ押し見学会のメンターも務めてくれました。

今回の教科イチ押し見学会は、森美術館です。初回が2007年度でしたので、20年近くお世話になっている美術館です。

森美術館のスタッフの方とも、現役美大生ともお話しできる、贅沢な機会となりました。

和田礼治郎《MITTAG》(2025)の前で。

展覧会

[六本木クロッシング2025展: 時間は過ぎ去る わたしたちは永遠](#)



A.A.Murakami《水中の月》(2025)は 大人気でした。

当日のながれ

1. 美術館スタッフの方によるツアー
2. 個人でお気に入り作品を見つけに行く
3. グループに分かれて、お互いのお気に入りをお話しながらまわる
4. (希望者) 自由鑑賞



■生徒のワークシートより

気に入った作品について

・(A.A.Murakami《水中の月》(2025)をみて)木の枝?からシャボン玉がでて、ながれて割れるまでの間の時間が、人が生まれてから死ぬまでみたいで、はかないが尊いと思った。

・(A.A.Murakami《水中の月》(2025)をみて)私はこのシャボン玉を「言葉」だと感じた。木(人間・生命)から忽然と現れ、忽然とはかなく「スッ...」と消えていくものもあれば、残り物もあるところが、言葉が相手に伝わり、消えていくものもあれば、相手の心に力強く残るものもある、人間の時間の流れも表していると感じた。

・(和田礼治郎《MITTAG》(2025)をみて)作家さんがつくって終わりではなく、美術館の方がたまにお酒を足していったり完成させているのが面白いと思った。

興味を持ったこと・考えたこと

・どれもぱっと見は”???”となるが、よくみていると感じられるものがある、それも人によってちがいで、その感じられたものを話しながらみていくのが楽しかったです。

・「時間」という1つのテーマだけでも、絵の具を使ったり、お酒を使ったり、毛糸を使ったりして、色々な方法で表現できるんだと思いました。

・今まで美術館に行ったのより、説明してもらえるといろいろな発見があったのしかた。今までの作品や展示物に向ける目や考えが変わってよりおもしろいものなんだと思えました。

・私が不気味に感じた作品は友達は面白いと感じていたりして、みんなで思ったことを共有できて楽しかった。

+++

森美術館のみなさま、武蔵野美術大学の学生のみなさま、ご協力いただきありがとうございました。

* * 過去13回の様子 * *

2007年度 教科イチオシ見学会①森美術館

2008年度 今日のお客様&教科イチ押し 22 森美術館

2009年度 春期講習・教科イチ押し森美術館

2010年度 気になる声シリーズ⑥教科イチオシ見学会【森美術館】

2011年度 17 教科イチ押し見学会(森美術館)

2012年度 本を出版しました。15 教科イチ押し見学会(森美術館)

2014年度 中 1 国語科特別講座・森美術館

2014年度 教科イチ押し見学会(森美術館)

2018年度 ⑭教科イチ押し【森美術館】

2020年度 ⑩教科イチ押し見学会【森美術館】

2022年度 生成AI・デジハリ見学・関連書籍

2023年度 春の訪れ・寺田倉庫見学会

2024年度 特別講座他報告